

庁内連携がうまくいかない

「誰のために、何のために、何をするのか」という想像力の欠如

未来を想像することができない

ゴールが見えない

- 毎日の業務と決められた役割を果たす中で、地域のためにある仕事のはずなのに、そのつながりの実感を失っていく
- 「この地域がどうなったらいいか？そんなことは、自分が考える立場にない」
- 「成果もゴールも、何かの基準に基づいて、誰かが決めればよい」
- 自分自身の仕事の価値を見失っていくループへ...。

自分の業務が、どんな社会課題・地域課題とつながっているか分からないので協力する発想にならない

全庁的な取組であるという意識の欠如

調査の仕組み、検討・議論の場がない

環境事業で他課との連携・調整難しい

他部署へ相談しても相手にされない

庁内のどこに何の情報があるか分からない

「分かりやすいこたえ」への依存が、他責にし続けて逃げ切る思考を育てる

定量的評価を求められる

説明資料で100%の成果の保証を求められる

庁外連携がうまくいかない

「後任の人ができないような仕事を作らないでほしい」ークリエイティビティの侵害

動きはじめた人に責任が集中する

異動がある

- 地域にとって必要な仕事を創造すると、注目が高まる
- しかし、それは今までにない仕事を創出することでもあるので、「成果」や「責任」を細かく言われる傾向にある
- そうこうしているうちに、必ずやってくる「異動」。
- 地域との信頼関係、出せたかもしれない成果はどこへ...。

地域のために存在する仕事なのに、地域のこと分からない状況

地域とのつながりがない

地域の事業者・企業と関わりがない